

新教頭赴任

新任のご挨拶



教頭 富所 三郎

明治三十三年に発足し、百有余年の激動の歴史の中で、幾多の有為な人物を世に送り出してきた名門高崎高校へ本年度の人事異動で赴任できましたことを感謝しております。
昭和四十三年に群馬県の高校教師になつてから三十五年の歳月が流れてきましたが、その間常に高崎高校の存在を頭上に仰ぎながら、いつかはそこに教鞭をとることを切望してまいりましたが、今回ようやくその念願がかないました。

前任校は男女共学の前橋南高校でありま

したが、男子高校である本校に参りまして、久々に応援団員の雄叫びを聞いたり、放課後における部活動で泥と汗にまみれてスポーツに取り組み、若き血潮を滾らせている生徒諸君を見ると、今更ながら本校が男子校であるということを確認させられました。

本年度は新入生の八割が運動部に入学しましたが、そのことは文武両道を目指す本校の精神を生徒諸君が着実に理解していることとの証拠であると思います。3F精神もしっかりと若き世代に引き継がれております。

今年度の県高校総体の総合成績も昨年引き続き、「第二位」を獲得することができました。昨年は十九年ぶりの「第二位」獲得という快挙でしたが、県総体での各部のプレーを見ていると、次年度には栄光の「総合優勝」を現実のものとすることも夢ではないと思います。

各部の成績では、軟式野球は準優勝、三位にはバスケトボール部、バレーボール部、四位にはテニス部、ソフトテニス部、五位にはラグビー部、サッカー部、剣道部、卓球部、柔道部、陸上部、八位には山岳部が入賞しました。また、借しくも入賞できなかった他の部でも、選手達は立派な競技態度で正々堂々とプレーし、次回への足がかりを作りました。

硬式野球部の春の大会では、準優勝の桐生高校と三回戦で対戦し惜敗しましたが、随所で果敢なプレーが見られました。一年生大会では第三位となり、硬式野球部の県大会での覇権獲得の日もそう遠くはないことを実感しました。

県総体の各会場へ出かけ、生徒や保護者、OBの皆さんと一緒に応援しましたが、翠巒健児の活躍は見事でした。

戦前戦後の歴史を調べてみると、文武を尊ぶ高崎高校の伝統は随所に垣間見られます。高崎高校は昭和二十三年に新制高校として発足しましたが、早くもその年の七月の第一回県下高等学校籠球選手権大会決勝戦では前橋工業を破り優勝しました。

また、同年八月の県下ラグビーリーグ戦の決勝では前商を撃破し、関東地区大会へ駒を進めました。そして、関東地区大会でも優勝し、関東代表の栄誉に輝いたこのことです。十一月には排球部も県下バレーボール選手権大会で高工を破り優勝しました。

この伝統は脈々と生き続け、文武両道は本校のバックボーンとなつていきます。毎年実施される独特なイベントとしては、高崎高校と前橋高校との間で実施される定期戦があります。

昭和二十四年の生徒会役員会で、旧制一高対三高の定期戦の群馬版を行おうという高崎高校の提案に基づき実現した第一回大会はその年の七月に実施されました。

爾来半世紀以上に亘つて両校はお互いを好敵手として位置づけ競い合ってきました。数年前にラジオの民放で定期戦の実況放送が流されたことがありましたが、近年稀な男子校同士のスポーツでの交流は県外からも関

心を集めています。

定期戦の最近の特徴は、会場校が常に勝つているということです。

今年の定期戦の会場は高崎高校であるため、是非とも全ての種目で圧勝してもらいたいと思います。

現在、定期戦は両校の競い合いの象徴的存在となつており、文武両面で両校は切磋琢磨していきすが、今後この行事が更に発展することを祈念しております。

昨今、青少年の体力不足が問題になっております。昭和六十年を境に青少年の体力は下降しており、それに付随して家庭学習時間の減少や忍耐力不足も話題になっております。知育・徳育・体育がバランスよく行われなければ国の将来を担う世代を育成することは不可能だと思ひます。

二十一世紀の国の内外には、未だ人類がその歴史の中で体験したことのない大きな課題が山積しており、世界は混迷しております。

地球温暖化・環境汚染・人口爆発・民族対立・テロリズム等、どれ一つを見ても容易な課題ではありません。

翠巒健児には、将来これらの問題を解決するのに必要な力を身につけるために、この恵まれた教育環境を最大限に活用し、心身の鍛錬を行つてもらいたいと思ひます。

そのためには、3F精神(ファイト・フェアプレー)の努力を行うことが肝要であると思ひます。

破竹の勢いで前進し続ける本校の各運動部の更なる活躍を期待しておりますが、今後とも翠巒体育会の益々のご支援・ご協力をお願い申し上げます、新任の挨拶とさせていただきます。

特別寄稿

細谷投手逝く



飯島 勇
野球部 (57期)

先輩達の果
たし得なかつ
た甲子園出場
の悲願に燃え
2度の出場決
定戦に挑戦し

ながら、ついにその夢を達成できなかった悲運のエース細谷崇投手が昨年大晦日に逝去した。マネージャーとして裏方を支え、同じ釜のメシを食った仲間の人として哀悼を念じ、当時の細谷君の輝かしい戦績を称え、ふり返つてみたい。

当時の群馬県高校野球界は稲川東一郎監督率いる桐高が選抜甲子園大会で準優勝するなど全盛時代で、各校とも打倒桐高に燃えていた。

我々の1年前のチームはその桐高を破り、久しぶりに関東大会、神宮大会に群馬県代表として出場した強力チームだったが、その余勢をかつての夏の大会では優勝候補筆頭に目されながら、まさかの準々決勝で藤高に逆転負け。関係者のシヨクは大きかった。

3年生引退後、新人戦に向けての我々の新チームは総勢13人、強いチームの後だけに風当たりが強く誰もグラウンドには来てくれなかった。おまえ達は棒もタマもいらぬ。頭と足を使えと最初はボールも、バットも握らせてもらえなかった。

ただ、46期の野球部OBではない先輩達が素足でスポンの裾をめぐり、手に豆をつくりながらラックをしてくれたり、心の支えとなつてくれてとても心強かった。

監督コーチもおらず、練習メニューもすべて自分達で考え、緻密な考える野球を編み出すためにボールが見えなくなつてからもマウンドに集まつては喧々諤々の大激論を夜遅くまでやつたものでした。

私もマネージャーとして渉外の他、部員の意志の統一をはかり、和のあるチームにまとめあげるのに苦心しましたが、全体をまとめあげたのは新主将になつた細谷君で、彼は人知れぬ苦勞をしていた。

考える自分達の野球が出来るようになって、まず自信をつけたのは前高との定期戦でした。今でも忘れられません。細谷君と前高のエース後の巨人軍の8時半の男と言われた宮田投手との投げ合いは物凄い迫力があつた。

結局、細谷君の巧妙なピッチングで前高を破り、あの一戦が何よりもの自信となつて、以後、無敗の快進撃を続けることになつたのでした。

——昭和31年、秋の関東大会

県予選には優勝し、群馬県代表として関東大会に出場。強豪千葉商宇都宮工を破り、決勝戦に進出、甲府工と対戦した。

1対1で迎えた延長11回の裏に、2アウトから3三振をとつていた選手に2塁打を打たれ、次打者にライト前にポテンヒットされ、サヨナラ負けした。

ストライクをとりについた初球を狙われたのだった。

試合後、走者が三塁ベースを踏んでいなかったとの指摘もあつたが、後味の悪い負け方だった。

あの時の細谷君のピッチングは冴えきつていただけに残念だった。

秋の関東大会・決勝戦進出、しかも延長戦での敗退。

もしかすると、来春の選抜甲子園大会に推薦されるかもしれない。

我々は修学旅行を返上して上州名物の空つ風の吹く中、城南球場に合宿、城南球場から学校へ通つた。朝5時、暗いうちに起きて観音山の階段をランニング。顔や手足の指先の感覚がなくなる程、身を刺すような寒さとの戦いだった。寒風の中でバテイング練習では手が裂けて竹バットのにぎりが血で滲んだ。

——昭和32年1月31日

選抜甲子園大会出場校決定日。野球部員全員が校長室に集められ、朗報を待つたが、毎日新聞社から入つた一報は「選外優秀校」だった。

残念。無念。ああ甲子園は夢だったか。夏があるさ。夏、頑張ろう。

皆、肩を抱き合つて泣いた。電話を受けた田中悦平校長、市川清野球部長、佐藤寿雄後援会長も一緒に泣いてくれた。

当時の選抜甲子園大会出場枠は東京関東地区から2校(現在6校)だったので、結局、早実、甲府工が選抜され、本校は選外優秀校で涙をのんだのでした。

選抜甲子園大会には出場できなかったものの、神宮大会には群馬県代表として2年連続して出場し、実力も評価され、マスコミの取材も殺到し、「東日本に左の早実、王投手・右の高崎、細谷投手あり」とスポーツ紙で大きく報じられ、関東の有力校からの招待試合の申込みが殺到。毎週末には遠征に次ぐ遠

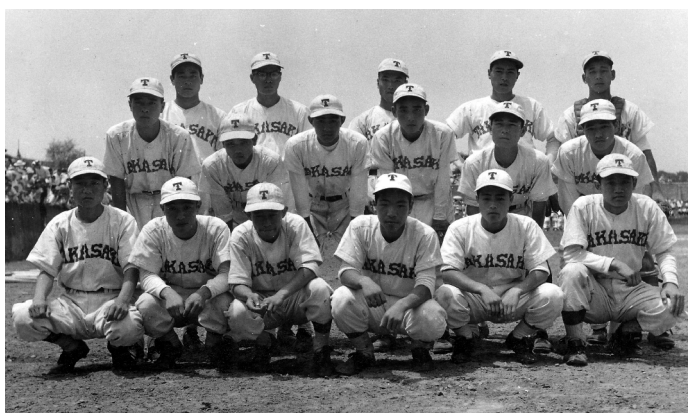
征で高校野球生活も随分楽しんだ。

中でも選抜甲子園大会優勝校早実との親善試合で細谷君と王投手との投げ合いは圧巻で、スコアブックをつける自分の手が震えたほど物凄い気迫を感じた投手戦でした。今思えば、世界の王選手と対決できたなんて夢みたいなことだつたと思ひ出されます。

——昭和32年夏

夏の大会は県大会で高商、前工、桐高を高を破つて優勝した。現在でしたらここで甲子園だが、当時は北関東大会を制さなければ甲子園に出場できなかった。

その北関東大会1回戦では、神宮大会の覇



者 優勝候補の水戸一高を細谷君の好投と竹内選手の巧打、本多選手のファインプレーなどで7対0のシャットアウトで破った。準決勝では宇都宮商と対戦、この試合で3回の裏ヒットで出塁した細谷君はバントで2塁に送られてから、次打者のショートゴロで三塁に突進し、猛烈なスライディングをしたが、その際、足を骨折してしまった。

強気で気丈な細谷君は気力で4回まで一本足で投げたが、以後立っていることもできず、そのまま救急車で病院に運びこまれてしまった。

甲子園に行くために高校野球をやったとき細谷君には突然のアクシデント、悔しかったろう。無念だったろう。ベットのうでいたたまれなかったろう。

この試合は田島選手が貴重な1点をたた

きだし、2年生の若山投手が好リリーフし、1対0でシャットアウト勝ちし、いよいよ北関東大会の決勝戦へと進出したのでした。

あと1勝で甲子園だ。今までの汗と涙の結晶をここで出そう。

細谷君の分まで選手一丸となって頑張ろう。選手一同誓いを合した。

水戸の宿舎には、地元女子高生が花束を持って大勢見舞いに来てくれたが、細谷君本人は病院のベッドに横たわっていた。

決勝戦前夜、ミーティングではエース不在の投手起用について、若山投手を先発させ3人の継投策を立てた。

必勝を期して臨んだ決勝戦は土浦一高。6回まで1対0でリードしていたが、7回、後に阪神タイガースの監督になった安藤選手に逆転打を打たれ、ついに勝利の女神か

らも見放され、1対6でまたしても決勝戦で涙をのんだ。

若山投手が無得点で抑えていた時の交代だけに、早い投手の交代が惜しまれた。

エースの細谷君がいってくれたらなあ。

ああ 甲子園に行きたかった。

甲子園で「翠巒」を声高らかに歌いたかった。甲子園への道は険しく遠かった。



ついに悲願達成は出来なかった。

細谷君の高校野球に対する情熱、母校高野球部に対する熱き思いは、後輩達に受け継がれ昭和56年、細谷君の指導を受けた後輩達は、見事選抜甲子園大会出場の悲願を達成してくれました。

文武両道、学業も優秀な細谷君は医学の道へと進み、地元高崎の医療に貢献しておりました。

お互いに還暦を過ぎたばかり。これから同級生みんなが細谷君のお世話になろうと思っていたのに突然の逝去。早すぎた。残念です。

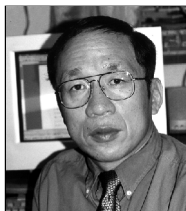
私にとつて細谷君と一緒に青春を謳歌できたことは最大の誇りであり、感謝してやまない。別れを惜しむ言葉はとてども語り尽くせるものではありませんが、細谷君のご冥福をお祈りいたします。

スポーツと医療 [VOL.4]

中高年者のスポーツ参加のための
メディアカルチェック



「高血圧症とテーラーメイド治療」



真木病院 内科 医師 永尾 俊弘 (70期) 水泳部

おそろくほとんどのの方が、血圧とか高血圧ということばを、ご存知だと思えます。また、この文章をお読みの方の中にも、高血圧症の治療を受けている方も多いと思えます。最近、高血圧症について様々な事実が判明し、以前とは治療法がかなり様変わりしており、以前は正しいとされていた血圧に関する事柄でも、

現在では誤りとなつてしまった事柄がかなり見受けられます。また、以前は高血圧症の患者に対して同一の目標に対し画一的な治療

を行つておりましたが、近年は高血圧症の患者一人一人の性別、年齢、生活環境(ライフスタイル)、遺伝的素因などを十分に考慮し、目標をきめそれぞれに適した治療を行うべきであると変化しております。これをテーラーメイド治療と呼んでおります。

1.なぜ高血圧症は治療が必要か?

現在では、誰もが高血圧は病気だと認識しておりますが、なぜ血圧が高いということが病気のなかのでしょうか。人間ドックなどで、多数の

人たちの血圧を測りますと収縮期血圧(最高血圧)については90~200mmHg(以下すべて単位は省略いたします)まで、拡張期血圧(最低血圧)については60~180までの方がおられますが、どの方にもなんの症状もみうけられませんか。では、なぜ血圧が高いことが病気のなかのでしょうか。それは以前より、血圧の高い方に脳卒中や心臓病が多く短命であることが経験的に知られてきたからです。そのため生命保険に入る時、血圧の数値が問題となり、血圧が高すぎる人は保険に加入できず、血圧が少し高い人は保険の月々の支払料が高くなりました。真偽のほどははつきりとしませんが、血圧の高い人が短命であるという最初の統計は、保険業者によるという説もあります。現在、血圧を高いままに放置すると起こりやす

い疾患として、脳卒中(脳梗塞、脳出血)、脳底動脈硬化症、高血圧性心臓病、虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症)、大動脈瘤、高血圧性腎臓病、四肢の動脈硬化性疾患、高血圧性の眼底の変化(眼底出血など)が知られています。以上のような疾患群を動脈硬化性疾患と呼びますが、高血圧を治療する目的は、血圧を

高崎高校

野球部OB会

会長 飯島 勇(57期)

高いままに放置すると将来起り易い動脈硬化性疾患にならないために、血圧を積極的に下げるといふ事につきます。

2. 高血圧症の定義は？

よく血圧の正常範囲は、あるいは血圧の正常値は、という話を耳にしますが、実はあまり知られていませんが、血圧の値が幾つからは動脈硬化性疾患になり易いので治療しましょうという高血圧症のきまり(基準)が先にあり、それより低い値を一般に正常と称してしまっています。従いまして高血圧症の定義は、徐々に変化してきます。少々細かい話になりますが、1962年に発表され1978年に改定されたWHOの高血圧症の基準が一番有名で、近年まで賞用されてきました。ご存知の方もいるかもしれませんが、収縮期血圧(最高血圧)が160以上もしくは拡張期血圧(最低血圧)95以上のいずれかを満たす場合を高血圧症とし、収縮期血圧140以下かつ拡張期血圧90以下を血圧正常とし、それ以外を境界型高血圧症としました。現在では、1999年に日本高血圧学会が示した高血圧治療ガイドライン2000年版による収縮期血圧140以上または拡張期血圧90以上を高血圧症とし、それ以下を血圧正常としたものが用いられています。

3. 血圧の正常な値は？

高血圧治療ガイドライン2000年版では、血圧正常を下記のように区分しました。

しかし、血圧正常をその将来の危険性のために、下記のような二つの群に分けたために混乱がおきております。特に正常血圧という一般になじみ易い用語を使用したため、正常血圧は収縮期血圧130以下で拡張期血圧85以下であると誤解を招いています。このガイドラインによると、この正常血圧の方も家族に高血

分類	収縮期血圧	拡張期血圧
至適血圧	120以下	かつ 80以下
正常血圧	130以下	かつ 85以下
正常高値血圧	130~139	または 85~89

医師は、高血圧症を専門にしている入している人を全員専門家と考えても千人強しかいません。つまり、一人の高血圧症の専門医は、二万人の患者を診る計算となります。すこし、枠を抜けて内科医が十万人(実際は八万人弱)いたとしても内科医一人当たりおよそ千人の高血圧症の患者を診る計算となります。今でも高血圧症の方が全員

圧症あるいは心血管病の方がいれば年に1~2回の血圧測定を勧めることとなります。つまり、たいへん矛盾した話となりますが、正常血圧でも経過観察が必要ということになります。さらに、驚くべき事に本年(2003年)5月のアメリカ高血圧学会の新ガイドラインでは、正常血圧は収縮期血圧120以下かつ拡張期血圧80以下となりました。もちろん、積極的な降圧治療が必要な高血圧症の基準は、従来と同一な収縮期血圧140または拡張期血圧90以上となっております。正常血圧と高血圧症の間は、分かりにくい用語ですが、高血圧前症(preehypertension)となり、血圧を定期的に測りながら生活環境(ライフスタイル)を修正する必要があるとされており、将来血圧を測つたときあなたの血圧は収縮期血圧120かつ拡張期血圧80以下ですから、血圧を心配する必要はありませんという指導をする時代がくる可能性があります。しかし、現在でも日本にはこれまでの基準で、二千万人の高血圧症の方がおります。皆さんは御存じな

病院に来院され治療をおこなうたら、他の病気を診るひまが無くなってしまう。

4. なぜ血圧が正常という基準が低くなるのか！

最近、高血圧の疫学的研究が多数発表され、その結果から血圧は低ければ低いほど良い(The lower, the better)という結論が導き出されており、血圧正常の範囲であっても、血圧がより低いほうが動脈硬化性疾患にならないことが判明しております。つまり、日本高血圧学会のガイドラインの至適血圧(収縮期血圧120以下かつ拡張期血圧80以下)の方が最も動脈硬化性疾患なりにくいということではたして至適血圧以外の血圧正常の人を年に1~2回病院に受診させ血圧測定をすることが可能なのでしょうか、あるいは、意味があるのでしょうか。私個人としては、はなはだ疑問に思っております。

5. 血圧はいくつまで下げるべきか？

高血圧症患者に対し血圧をいくつまで下げるか決めることを、降圧目標の設定といいますが、先ほども述べたように高血圧症の各種疫学調査の結果からは、血圧をできるだけ下げたほうが良い(The lower, the better)となっており、以前は血圧を下げるすぎるとかえって脳梗塞になり易いと信じられておりましたし、高血圧学会のなかでも、Jカーブ仮説(血圧を下げるには最適のレベルがあり、それ以下に下げるとかえって動脈硬化性疾患の発生が増える)があり、長い間議論されてきました。2年ほど前にこれを否定する大規模な疫学的研究が発表され、それ以降The lower, the betterとなりました。しかし、年齢・性別・病歴(合併症の有無・遺伝的素因を考慮せず)に高血圧だからといって治療をおこなうていいのでしょうか。近年そういつた

高崎高校

柔道部OB会

会長 関口 茂樹(63期)

疑問がおこり、患者の状態によつて降圧目標をかえる、テーラーメイドの治療を行う方向になっております。

6. 血圧を下げることは本当に意味があるのか？

血圧が高いまま放置すれば脳出血や虚血性心疾患をおこし確かに命にかかります。血圧を下ればそれを免れると以前は信じられておりました。しかし、意外と思われるかもしれませんが、現在ではこれでは科学的根拠に乏しい治療法となつてしまっています。現在の医学的治療は、従来の経験的医療から科学的根拠に基づく医療(Evidence based medicine)をおこなう方向に傾いております。高血圧症の治療でいえる、高血圧症の人たちの血圧をしっかりとある基準まで長期間下げたとき、どんな合併症が減るかを十分に検討しなければなりません。近年、いくつかの大規模な疫学的追跡調査の結果が発表され、以下のことが判明しました。①高血圧症の治療をしっかりとおこなえば、ほとんど脳出血になることはなく、死に至るような大きな脳梗塞になることもない(小さな脳梗塞を100%予防することはできない)。②高血圧症の治療は心臓の合併症の進展予防に効果はあるが、虚血性心疾患(心筋梗塞狭心症)については糖尿病病 高脂血症といった他の危険因子の治療を充分に行うべ

きである。高血圧治療はそれほど効果がない。
③高血圧症の治療を充分に行えば、腎臓の合併症が進展し人工透析を行うよう状態にはほとんどならない(ただしこれは経験的事実です)。糖尿病の腎障害(糖尿病腎症)の進行の予防に現在最も効果があるのは、血圧の管理である。つまり、高血圧症を放置すると様々な動脈硬化性疾患になり易いことは事実ですが、血圧が高いという要素を改善しても、すべてが解決するわけではなく限られた疾患の予防しかできません。以上のことは誤解を招き易いと思いますが、これは高血圧症に限らず、生活習慣病(高血圧症、糖尿病、高脂血症、肥満、高尿酸血症、全般さらに大部分の病気に於いて当てはまる)です。それぞれの病気に於いて原因はいくつもあり一つの要素の改善で解決できる範囲は限られ、さらに病気の原因と今まで考えられていた事の中に、実は原因ではなく単なる結果に過ぎないものも多いからです。

では、血圧を下げるにはどうしたらよいのでしょうか？

7. 塩分をとらなければ、血圧はさがるか？

7〜8年前、減塩は血圧の治療に意味がないという話題がマスメディアにとりあげられました。これは必ずしも間違つてはおりませんが、真実の一端はしかありません。塩分の摂取を減らすことは、日本人の3〜4割の方については高血圧症の予防にたいへんに効果がありますが、残りの人たちについては、それほど効果がありません。これは、遺伝的な要因によるかと考えられております。しかし誤解されては困りますが、これは高血圧症の予防に関してであつて、高血圧症と診断されなならんかの薬を服用している場合、塩分を控えることは降

圧薬の効果をより高めますので、減塩はたいへん意味のある事となります。塩分を控える目標は、現在1日7g(調味料としての塩分摂取は4g)となっております。

8. 高血圧症の治療は

前にも述べたように高血圧症の方に対しては、可能な限り血圧を下げたほうが良いという事になっております(The lower, the better)。しかし、現実には高血圧症の方についても年齢も様々ですし、遺伝的素因(家族に高血圧症、動脈硬化性疾患の方がいるかどうか、性別)ある年齢まで女性も動脈硬化性疾患になり難い、合併症の有無もちがいます。このため今日では患者それぞれの状態に応じて、治療内容を交えるテーラーメイド治療、ようになっております。細かい説明は省きますが、概略は、降圧の目標は最高血圧(収縮期血圧)140以下かつ最低血圧(拡張期血圧)90以下であるが、①若年者、中年者(45歳以下)では、130/85未満、②糖尿病を合併している方は130/85未満、③腎疾患を合併している方は130/85未満、さらに蛋白尿が一日10g以上の方は可能なら125/75未満④高齢者(60歳以上)では臓器血流量が低下している可能性があり、できるかぎり緩徐に70歳台では150/160/90未満、80歳台では160/170/90未満とする。

9. 高血圧症と運動

一般に運動は血圧を下げると思われております。確かに持続的にある量の運動を続けると血圧は下がります。しかし、激しい運動をしている時はかえつて血圧は上昇しますから、高血圧を放置している方が、血圧を下げようとして激しい運動をすることはたいへん危険なことになります。また、高血圧症の方の中には、心臓の合併症や腎臓の合併症をお持ちの方

方も多く、運動することでかえつて心筋梗塞、狭心症に併発し、腎機能を悪化させてしまうこともあります。したがつて、虚血性心疾患、心不全、腎不全、骨関節疾患をお持ちの方には運動療法は勧められません。高血圧症の運動療法の基本は有酸素運動です。よく血圧が高いから歩き始めたと言つた会話を耳にしますが、高血圧症の運動療法としては残念ながら間違ひです。少々細かい話になりますが、たとえば60歳以上の方では、心拍数(脈拍数)110/分程度の軽い運動を一回30〜40分、週に3〜5回継続的に行うことをお勧めします。決して一日に一万歩の散歩を進めるものではなく、国際的なガイドラインでも毎日30〜40分の早歩きを紹介しております。スポーツの種類としてはランニング(軽い)、歩行早歩き、水泳がよいとされており、私の個人的意見としては、水泳は水圧の問題があり血圧の変動が大きく、無酸素運動にもなり易いので高血圧症の治療には不向きだと思つています。

10. 高血圧症と嗜好品

アルコールを飲んだ直後血圧は下がること知られていますが、長期間の飲酒は血圧を明らかに上昇させます。もちろん肝臓に障害がない場合ですが、飲酒の量は男性ではエタノールに換算して一日20〜30g以内、女性では一日10〜20g以内とすべきだとされています。喫煙の血圧に対する影響は意外な事に軽度です。喫煙により血圧は上昇しますが、ずっと吸い続けても高血圧になることはありません。それなのに禁煙を強く勧めるのは、喫煙は高血圧症の合併症である心筋梗塞、脳卒中の強力な危険因子だからです。

11. 高血圧症とストレス

これも意外と思われる方も多いと思いますが、血圧とストレスの関係については結論がでておりません。ストレスがかかるかと確かに多くの方で一時的に血圧は高くなりますが、ずっとストレスが続いたからといって高血圧になるわけではありません。マスメディアではバイオフィードバックやリラクゼーションに血圧を下げる効果があると報道していますが、科学的根拠はあいまいです。誤解されると困りますので、いまま少し詳しくお話ししますと、バイオフィードバックやリラクゼーションを行っている時、多くの方の血圧は一時的に下がりますが、持続的に血圧が下がるかについては疑問があります。

12. 終わりに

高血圧は病気であり健康のために血圧は下げるべきだと言つてしまえば、非常に簡単なことですが、科学的根拠に基づき治療をしようとする以上のようなたいへん長々とした話になつてしまいます。実は、まだまだ続くのですが紙面の都合でこのへんで終わりたいいたしました。私が医者になつたころは先輩に医学は科学ではなく経験だと言われたいへんな違和感を覚えました。現在の医学治療の趨勢が科学的根拠に基づく医療(evidence based medicine EBM)になり、たいへんうれしく思つております。

高崎高校

剣道部OB会
剣友会

会長 横田 茂(55期)



青春の絆 オムニバス
友松敬三(61期)

我が61会は、今から11年前当番幹事の年に、「京浜61会」を創りました。今年は6月6日に虎ノ門バスケットボール会場で11回目のパーティです。楽しみですね。京浜で60名、高崎本部から10名程度上京、みんなでガヤガヤやりますから、当然、コンパ・オンなど無用です。

ところで、最近、東京では「東京同窓会」と改名したそうですね。今の時代は「東京」ではないでしょう。「大江戸」とか「関東」の方がよいのでは……。我らの61会もみんなと相談します。「東京田舎61会」あたりではいかがですかね。

先日久しぶりに清水貞保先生宅をおじゃましました。私の所属していたバスケットボール部の部長先生です。榛名町で採った「フキ」を京都風のうす味にしたてて。先生は、「美しい美味しい」と、とても楽しんで食べて

下さいましたよ。90才を超えて益々お元気です。橋爪和尚のこと、20年前に私が進呈した伽羅の木のこと、いろいろ話して下さいました。「一人で居られる間は一人で居る。」と言っておられました。心配しながらすぐ近くに居住している長男良一さんのお気持ちも暖かく、とても熟知たる思いであります。

「フキ」のことを書きましたが、最近では、フキ・山椒・こみこしあぶら等々、山で採れたものが好きですね。年のせいですよ。これは若い頃、そうそう高校生頃です。肉・牛肉、肉が無いとどうしようも無い時代です。合宿に入ると、バスケットの大先輩、松岡精肉店にお願いにありました。肉の固まりをもらって、ドンブリ飯5杯、よく食べましたね。それでも筋骨隆々、それが今はどうです。ああ、あの頃にもどりたい……。

バスケットOB会の有志の会という団体があります。年に何回か酒を飲むんですが、これが又すごい！皆酒くせが悪いんです。青春時代に帰っちゃうんですね。上は岩田先輩、富沢先輩、下は65期くらいの須田君。十数名がワイワイガヤガヤ、とても示しがつきません。「あのゲーム、お前が(シュートを)落としたんで負けたんだ。」とか、「意味もないのに先輩は殴った。」とか、「俺もあの女が好きだったんだ。」……。おまけに年々歳をとってきて、同じことの繰り返しです。まあ、それが楽しいんですよ。「俺はもう絶対この会には来ない！」と叫ぶ先輩も又、この会を開けと言おう。とても矛盾だらけの集まりです。今度は暑気払いですかね。参加したい方、どうぞご随意に……。

り、年配は若者をたてる。これの一語です。連絡は常に同一、集まりは常に一緒決まったことはみんなで行動。中間年齢の私どもが、常に気配りすることが大事です。原稿の依頼が観音山の良真君からありました。彼が斉藤君とともに高々バスケットボール部OB会事務局をやつています。諸々の期待を込めて、しばらくは林会長をはじめOB会役員及び事務局に活を入れる役目が続きそうです。大いに反省し、自分達OBの親睦、現役への支援をおこたぬよう、これからも「絆」を大切に、幸せな老後を、の感心としおであります。

「川嶋バスケット」との出会い
細谷 実(74期)

高校卒業以来ずっと関西の生活となり、やがて30年になろうとしている。すっかり薄口の生活に慣れてしまった私にとって、高崎高校での3年間はかなり濃い味の思い出として心に残っている。

74期生はバスケット本業においては華々しい戦績を残したとは言いがたい。しかし、2年次の翠巒祭のある出来事で一躍バスケット部の名前を不名誉ながらも轟かした。いわゆる「ししやも事件」である。今回その出来事についての詳細を時系列に沿って書くことと思ったのであるが、今となっては少し記憶が定かでないところもあり、大筋の話だけを紹介するにとどめる。

実行日は確か翠巒祭1日目の夜だったと思われるが、前夜祭で行ったファイアーショーの残り火を使って、部室で酒をお燗して飲むだけでなく、ししやもを焼いて酒の肴として食べているところを、生徒指導のK先生とO先生に見つかったという事件である。過去に

株式会社大陸不動産

代表取締役 **山口 正敏**
(卓球部・58期)

高崎市宮元町一〇八番地
TEL 〇二七三三二一四〇三一



「昭和49年6月、関東大会にて千葉南高校と対戦。延長の末かろうじて勝利。ボールを持った選手の左、黒のユニフォーム5番が筆者(細谷)」

学生が飲酒で捕まること自体はそれほど珍しい事件ではなかったのであるが、「燗酒とししやも」は、さすがに「飲み方が学生らしくない」とのことです。話が大きくなつてしまい、結局1週間の自宅謹慎処分となった。ただこの年、昭和48年はバスケット部にとっては3月に清水貞保先生が定年退職され、4月に高崎女子高校から川嶋尚武先生が赴任された年で、高崎高校における「川嶋バスケット」のスタートの年であった。赴任早々の川嶋先生をいきなりとんでもない不祥事の矢面に立たしてしまつたわけである。今更ながら、否、今だからこそ悔やんでも悔やみきれない気持ちでいっぱい

である。当時は思いつかなかったが、多分、バスケット部全体に処分が拡大しなかったのは川嶋先生の「尽力のおかげだったのだらう」と思う。「川嶋バスケット」と74期生との出会いはそんなスタートであった。

さて、試合での思い出も一つ。試合は春の県大会準決勝。対戦相手は優勝候補の中央高校。これに勝てば関東大会出場が決まる。後半も残すところ5分あまりで点差は3点の大接戦を演じていた。相手バスがサイドラインを割りマイボール。チャンスとばかり私はそのボールを掴み攻撃開始のパスを、こちらに駆け寄り来た味方に間髪を入れずに投げた、と思つた瞬間。駆け寄り寄つてきてバスを受けたのは相手のガード。そう、なんと相手にバスをしてしまったわけである。そこまでの緊迫した試合内容はこのバスマスによつてぶちこわされ、我がチームは惨敗。私は放心状態。私個人が「川嶋バスケット」でおかした失敗は多々あったが、このバスマスは今でも夢の中に何回でも出てきて私を苦しめる。ただ、神様は見捨てずにチャンスを与えてくれた。そう3位まで関東大会に行ける。3位決定戦は桐生工高。今までかけた迷惑を一気に解消するべく必死で駆け回つた試合。確か30点以上入れたと思う。写真はその結果勝ち取つた関東大会Bブロック1回戦の様を写したものである。本当に勝つてよかった。

一人の指導者

KIZUNA

平塚 守(91期)

私が高々バスケット部に在籍していた時は、前任の立見賢治先生と前々任の川嶋尚武先生が交代された時期だった。

当時の私達は、はつきり言つてしまへば、先輩達が築いた黄金時代に比べて低迷期といつても過言ではなかったように思う。中学時代ももちろん私もそうであったように、無名の選手だった同級生10人が集まった。私達は川嶋先生のもつても、もう一度あの黄金時代を到来させるのには何をすべきか悩んでいた。

その頃は部員が少なかつた事もあるが、部員の中で一番の長身選手だった私は、一年生からスタメンで使つてもらつていた。先輩達に協力できるプレーが出来なかつた私はとても悩んだ。しかし、長身の選手を育てる事をチームの方針としていた川嶋先生は、試合でいくらかミスをしように私が経験を積ませるために使つて下さり、一年後、二年後の私を見据えていてくれたのだと思う。その結果、意地と意地、プライドとプライドが相まみえる定期戦では、当時県内でも一二を争う前橋高校に前評判を覆して勝利する事ができ、今でも忘れる事のできない良い思い出の一つとなつている。

川嶋先生からは、バスケットボールの基礎やいかにチームの団結力を高めるかを学んだように思う。しかし、公式戦では県ベスト8の常連だった私達にはベスト4の壁は高く、いつも惜しいところで越える事ができないでいた。

そして三年生になる時立見先生が我が高崎高校に赴任して来てバスケットボール部の指揮をとつて下さる事になった。立見先生と言へば、高崎商業を何度も全国大会に導いた名将であり、6月インターハイ予選まで三ヶ月しかなく焦るばかりの私達に喝を入れ、チームの士気も高めて下さつた。

立見先生の指導の凄じところは、 unnecessary 言葉はほとんど口にしないという事だろう。細かいプレーの指示は出さずにヒントだけに

れ、どうすべきかは私達に考えさせてくれたのである。そしてそれがもの見事に当たる。一人一人の個性を伸ばしつつ、チームを格段にレベルアップさせてくれた。その結果私達は長年の壁を越え、一つ上のランクに上がり、かつての黄金時代には及ばないものの、今の後輩達の礎になつてると自負している。初めは指導者が替つた事で戸惑いもあったが、お二人の二通りのバスケットボールを体験できた事は、今でも貴重な私達の財産である。そして現在あの頃培つた体験を生かし、社会人バスケットはあるが、今でも現役として一線で活躍できている事をお二人に感謝したい。

トボール人生を歩むであろう、ミニバスの子供達に伝えていく事は、これからの私達の責務であり、これほど喜ばしい事はない。バスケットボールのみならず、人生についてもその厳しさを、心から感謝したいと思う。この原稿を書いていたら急に「高々」へ行つてみたくなつちやつたなあ。

高崎高校 バスケットボール部OB会

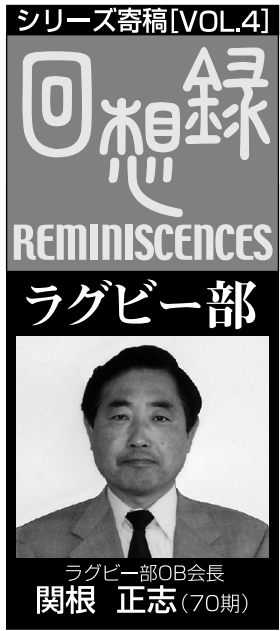
会長 林 進一(72期)

平成14年度 翠巒体育会収支計算書 自平成14年4月1日 至平成15年3月31日

Table with columns: 科目, 金額, 摘要. It details the financial activities of the basketball club, including income from membership fees and expenses for uniforms and equipment.

Table titled '財産目録' (Asset Register) as of March 31, 2015. It lists assets such as cash, bank deposits, and property.

会計監査 丸山 功一 廣田 誠四郎
口座振込ご利用の場合は、下記口座までお願い致します。
群馬銀行 高崎西支店 普通預金 0593363
スイランタイムカイ カイケイ タカハシロオ 翠巒体育会 会計 高橋浩生



卒業して三十数年が過ぎようとしており、体は思うように動かなくなっています。気持ちだけは現役時代のままで未だラグビーの世界から離れられず、どっぷりとラグビー漬けの日々を送っております。

私の現役時代は、当時高校生の間で一世を風靡したTBSラジオの深夜放送番組「バックインミュージック」に高々・前高の定期戦が放送され高々生の意気が高揚していた頃である。

その当時のラグビーと言えは、県内には芝グラウンドが一面もなかったことだ。練習で汗を掻きジャージが泥まみれになっただけならまだ良い方で顔までと見られたものではなかった。女子学生には嫌われたスポーツであった。冬になると今度は上州名物「からっ風」のおかげでグラウンドの土が飛ばされてしまいガチガチのコンクリートグラウンドとなり、スパイクのポイントが全く効かず自然の敵に苦労させられた。特に旧前高のグラウンドはその代表であった。

県内のグラウンド事情がこの様な時、関東大会が栃木県で開催され宇都宮の郊外の総合グラウンドに全面芝生のコートが五面以上あったのにはびびりさせられた。芝グラウンドでの試合は初めてで、その上、雨上がりのため、足元がとられ滑って敵のタックルを受ける前に自ら倒れてしまい散々な目があった。

ラグビー部に入部して一番びびりしたことはボール磨きであった。部の伝統で一年生の仕事となっていたが、今のボールゴム製で軽量と違って本革でできていたため、練習が終わるとボールの表面が汚

れ、ザラザラになってしまいうのでこれを綺麗に磨き上げるのである。磨く方法は特別なクリムとか油を使用する訳でもなく、すごく単純な唾を掛けてタオルで力一杯こすりながら磨き上げると光沢が出てピカピカなニードポールに仕上がる。練習後であると最初は唾も出るが二個目位になると喉がかわいているため魔法の油も出なくなり苦労したものである。

さて、合宿と言えは今は菅平がメッカとなっておりますが、当時はそういう場所もなく我が部では学校内合宿が多かった。地獄の合宿である。後輩の指導に熱心なOB諸氏が大勢おり指導コーチに見えていた。ゴールラインからゴールラインまでのランパスでは二十本位走るとラストワンの声がかかり、やつと終わるかと思うとそこから延々とアゲインが繰り返される。アゲインとはボールを落としたりスピードがなかつたりすると、OBが納得するまで繰り返すことであり、それもOBによつてだいぶ差があったと思う。そのため練習終了後二階の合宿所へ上がる階段を這い上がっていた記憶がある。当時はマンツーマンで指導してもらええる位にOBが熱心に合宿に来てくれたものです。今になって思えば大変にありがたき感謝申し上げます。夏の榛名湖合宿は非常に思い出深い合宿であった。中央高校との

合同合宿で宿舎は湖畔のバンガローで三丁四人位づつに分かれた。初日はグラウンドと言っても広場のような所だったので大きな石がゴロゴロしておりその石拾いを全員で行った。数日間、風呂がなかったため榛名湖で汚れを落とす。遠い昔であるからできたことであり今は許されることではない。

三年の時に全国大会が50回記念となり(今は一県一校が出場できるが、当時は埼玉県代表と北関東地区予選を行いこれを突破しないと花園への出場権が得られない)全員で花園を目指した。予選リーグから順当に勝ち決勝トーナメントも勝ち進み決勝戦で宿敵渋川工業との対戦となった。結果は惜しくも敗れ全国大会出場を逃してしまつた。試合には負けてしまつたがラグビー部の仲間、先輩、後輩と青春を謳歌できたことは今の自分の支えとなっている。そして「one for all for one」の精神は一生持ち続けていきたい。

OB会の活動



応援部OB会は、毎年新年総会と年一回ゴルフコンペ(懇親会)を行っております。

現在、名簿に登録されている方は百九十名程、県内在任の方が百三十名程おります。

しかし、年間行事に参加される方は二十名程という現状であります。参加者(特に若手OB)が少なく、より多くの会員に集ま

バレーボールOB
高橋税理士事務所
税理士 高橋 浩生 (78期)
TEL 〇二七三三六三三六三〇三
掛川司法書士事務所 総 (82期)
司法書士 掛川 裕
TEL 〇二七三三四一七五五二

高崎高校
サッカー部OB会
会長 阿久澤 茂 (69期)

つてもらえるようにすることが現在の課題だと思っております。

他の活動として、夏の甲子園予選での現役応援部への激励援助、新年の全体同窓会や翠巒体育会等の席で校歌や応援歌「翠巒」のリーダーをさせて頂いております。

また、昨年OB会員個人負担で羽織袴を十着程揃え、新年全体同窓会には着用させて頂いておられます。同時に現役応援部へも三着贈呈させて頂きました。ご報告とさせていただきます。

ていただきます。 押忍



深沢昇会長(57期)をはじめとする卓球部OB会は、毎年定例的に新年会、ゴルフコンペ、現役との交流試合を行っております。とりわけ、交流試合につきましては、しばし年齢を忘れ、現役時代に戻ったかのように各自、汗を流しました。

また、毎月第二土曜日の午後4時から、高見沢先輩のご好意により、松風館マツヤ研修所をお借りして月次例会を開催し、技術向上に励んでおります。皆様、お気軽にご参加ください。

なお、昨年夏の第12回翠巒体育会ゴルフコンペにおきましては、卓球部一丸となった結果、二位とは一打差の僅差ながらも、団体優勝させていただきました。ピンポン玉と、ほぼ同じ大きさのゴルフボール。関連があるのでしようか。

いずれにいたしましても、わが卓球部は、伝統ある3F精神をモットーに、誠心誠意、翠巒体育会、現役運動部を盛り上げてまいります。



平成15年4月26日菊地俊二OB会長とOB十数名が集まり、今後のOB会活動

について話し合いが持たれました。バレー部は、数年前よりOB会の役員等の業務について若手OBに移行されていきましたが、これを更に

進め、80年代後半から90年代のOBに役職を移管するという案が出され、実行することになりました。90期代として100期代にOB会活動を引き継ぐことにより、卒業直近のOBが行っている正月現役交流選、翠巒クラブ、翠巒体育会とOB会活動に幅がもたらされることとなります。願わくば、OBの交流と親睦が更に深まることにより、バレー部の弱点である翠巒体育会ゴルフコンペにも良い結果が残せるようになればと思っております。

現役の指導に当たっては、塚本先生、宮川先生にOBは絶大な信頼を置いています。バレー部OB会と翠巒クラブは、ここ数年が変革期の年となりそうです。



この一年間を振り返ってみますと、特筆すべきことがありまして、報告させていただきます。

まずはじめに、柔道部元OB会長であります桜井弘先輩(56期)が春の褒章(藍綬褒章)を受賞されたこととあります。現在、群馬県接骨師会会長であり、日本柔道整復師協同組合副理事長など全国組織の要職も努められています。父、四五郎さんから受け継いだ柔道場では多くの教え子を輩出し、いまはさらに長男・太郎さんが三代目として指導に当たっています。保健衛生の予防医学の発展と青少年の健全育成が高く評価されたものと、お慶びいたします。

次に、柔道部前OB会長であります石井清一先輩が榛名町長四期目の就任をされたこととあります。温厚で人望厚く町民の方々の

信任を得て、先の町長選でめでたく当選されました。現OB会長で鬼石町長であります関口茂樹先輩とともに、昨今の厳しい社会情勢の中で町政の舵取りをなさる姿を示していただけとは、頼もしい限りであります。健康に留意をされて難局を乗り切つて行かれることを望んでおります。また、石井町長さんには、さきに群馬県で行われました関東高校柔道大会に選手としての激励にいらして頂き、選手らは大いに力を得たところであります。大会結果は、決勝トーナメント出場で関東優秀校として表彰されました。

続いて、元高柔道部顧問でありました江原隆起先生がこの春定年退職(前工)をされました。今井孝造先生の後を受けて柔道部を指導し、多くの卒業生を出しました。私もその一人であります。あの大きな体と細やかな心づかいの印象は、今でも心の糧となっております。江原先生には益々お元気で活躍をされますことを望んでおります。



平成14年度のソフトテニス部OB会は、8月10日(土)に開催しました。

昼は、OBが約40名母校テニスコートに集まり、現役との交流試合。「こんなはずではない、これは自分のプレーではない」としきりに首をふるOB、腕の衰え、脚の衰えを口でカバーせず現役と対等に戦っているOB、とさまざまですが、無事怪我もなく和気あいあいと皆プレーを楽しみました。夜は駅前前の長谷川ホテルに場所を移して総会懇親会。昼間以上に口

角泡を飛ばして青春の思い出に花をさかせました。高々ソフトテニス部OBという絆がいかに強いかを知らされた一日でもありました。今年度は、顧問の浦野先生・井坂先生方々の指導のもと、例年以上に現役諸君の各大会での活躍が期待されています。これからもOBとして、現役後輩に対し、更なるバックアップ、応援をしていきたいと思っております。



平成14年度の硬式野球部OB会活動報告を致します。

野球部OB会単独での活動としては、6月30日に翠巒会館で行なわれましたOB会総会と、その後開催された幹事会が、主な行事と言えます。又、この他に、翠巒体育会の活動にも例年

高崎高校

応援部OB会

会長 永井 功 (65期)

高崎高校

硬式テニス部OB会

会長 齋藤 英敏 (83期)

通り積極的に参加をしました。4月には市役所前広場に於いてのフリーマーケット手伝い。6月には翠巒体育会総会出席、そして、9月に、ロースベイクントリーで行なわれたゴルフコンペに参加し、惜しくも3位という結果でしたが野球部の存在感を示す事が出来ました。この様に、OB会の活動をする一方で現役選手への激励会や、保護者会懇親会等にも出席をして、校長、監督をはじめとする学校関係者との交流を深めながら、OB会の甲子園出場に対する熱い思いを伝えております。

今年こそ、甲子園出場だ。



先号でこの欄をお借りして、「OB総会に若手の参加が少ない。」と苦言を呈した

ところ、昨年度の総会には、82期の松田君、坂君、丸山君、高橋君、85期の佐藤君、88期の佐野君、89期の茂原君(昨年度より母校陸上部の副顧問)、90期の石橋君と新たに8名の参加者を得ることができました。反面、いつも顔を出して下さった年配の先輩で体調不良等の理由で参加されなくなつた方もいらっしゃる、中でも第2代監督の小林國重先生(逝去)という訃報に接し、世の無常を感じさせられた年でありました。小林先生の「冥福を心よりお祈り申し上げます。さて、陸上競技部OB会の活動のもう一つの柱である現役選手への支援ですが、今年度関東高校大会が群馬県で開催されます。(この会報発刊時には終了)母校から四名出場しますが、全員にインターハイ出場を決めてもらえるように全面的に支援したいと思ひます。



三十年の歴史がある初競も、元旦の夜から降り出した雪で初めて中止になりました。二月には総会、新年会が行われ役員も再選されました。

前高OBと参加した群馬四十雀リーグですが、三勝十敗で十四チーム中十三位でした。健康と親睦をはかる気持ちで参加したのですが群馬の東二時間かけて行くのは五十に近い者にはタフでした。



ラグビー部OB会は、平成十五年一月四日高崎ビューホテルにおいて新年総会を

開催。昨年度OB会活動および決算報告ならびに今年度事業予定が発表され、すべて承認された。今年度はOB会長の改選の年であり、木村洋前会長(五十九期)から関根正志会長に(七十期)に会長職が引き継がれた。こ

高崎市でも極楽リーグと名付けた四十雀の大会が始まりました、名前の由来はグラウンドの確保が真冬と真夏しか出来ず極楽になつたと聞いています。今年の前期は三チームが二勝一敗で並び得失点差で優勝しました。

翠巒クラブは群馬県社会人リーグ一部で二位と、ミドル翠巒クラブは高崎市民リーグで四位と頑張っています。

十二回を迎える夏の前高との交流戦、今年は前高主催で行います。奮って御参加下さい。通信費削減のためメールアドレスを是非今年期清野君までお知らせ下さい。

れによりOB会理事会も新体制となり、組織の若返りにより更に現役強化策が図れると思われる。また、総会当日は総会に先立ち、恒例となつている現役対OB戦が高々ランドにて行われ、例年どおり白熱したゲームが繰り広げられた。三月三日の卒業式には、式のと、三年生部員四人に対して木村前OB会長よりOBとなった証として鷹をあしらった錦糸のエンブレムを贈呈し、卒業を祝つた。

今後のOB会活動予定としては、年一回の「OB会報」の発行、年会費の徴収、ならびに現役強化策として、例年八月に菅平で行われている夏合宿に関根正志OB会長が訪問し、ベスト8で不完全燃焼に終わった県総体から捲土重来を期し、花園を目指すよう激励する予定である。



毎年のOB会総会の案内に返事が戻ってくるのが約三分の一です。意外と多くの方が

ミニバスその他でコーチをしたり、現役であったり、お子さんがバスケットをしたりして、またにバスケットと関わっている様子が近況報告からうかがえます。

昨年度は、現役のインターハイ出場の壮行会を兼ねる予定であった総会がしめやかに行われたくらいで、少し寂しい年でした。現役の活躍を楽しみにしているOBの皆さんに朗報をもたらすことができず申し訳ない。春に大勝した高商に決勝で惜敗してしまいました。

昨年度をもつて立見賢治先生が十二年間の高々での監督生活を終えて万場高校に教頭として栄転されました。二度のインターハイ出

高崎高校

水泳部OB会

会長 新谷 恭一(54期)



平成14年度は水泳部OB会として、喜ばしいことがつありました。一つ目は、群

場をはじめ多くの栄冠を勝ち得て、高々バスケットOB会史に輝く立見時代を築き上げました。長い間ありがとうございました。後任のたいへん若い長竹潤先生にはOB一同大いに期待しているところです。

馬スイミングスクールで現在ヘッドコーチをされている小茂田猛先輩(67期)が、群馬県体育協会の指導者表彰で最優秀指導者賞をいただいたことです。群馬スイミングの創立以来、競泳選手の育成に長年情熱を燃やされ、幻のモスクワオリンピック代表の平田美恵選手をはじめ数々の全国レベルの選手を輩出させた功績が認められたものです。二つ目は先の群馬県県議会選挙で共産党からの立候補ではありましたが、伊藤祐司君(75期)が当選したことです。迷惑であったと思ひますが、翠巒体育会の皆さんにも快く応援していただき、水泳部OB会、伊藤祐司ともどもたいへんに感謝しております。残念なことは、バレー部OB会、サッカー部OB会のように翠巒クラブをつ



現在の剣道部の生徒は、この2年間、県大会の公式戦(総体、インターハイ)予選、選

くり、OB会としてマスターズ大会等に参加したいと考えておりましたが、平成14年度は実現に至りませんでした。来年度こそ是非とも翠巒クラブを結成し、大会に参加したいと考えております。



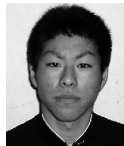
硬式テニス部OB会は、来年1月2日(予定)の正式発足に向けての準備活動中です。

ここ数年、来83期の代(斉藤英敏)と84期の代(山口正仁)を中心として、飲み会、テニス大会などを開いて懇親を深めて参りました。

手権大会、新人戦では、毎回ベスト八でもう一步のところでベスト四入賞を逃し、涙を吞んできました。生徒は、六月末のインターハイ予選で、上位入賞を実現すべく、日々稽古に励んでいます。

先輩がんばっています。

剣道部



原田 啓佑

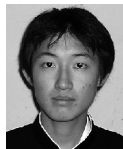
高々剣道部五十年の伝統と、モットーである短期集中の中もと、私達は優勝を目指して日々稽古に励んでいます。稽古の環境は非常に良く、毎日忙しい中稽古をつけてくれる戸塚先生、真藤先生をはじめとして、毎年恒例の夏合宿、春合宿、元日稽古会の際には多くのOBの先輩方にも大変お世話になっています。

道場に掛かっている先輩方の伝統の証である歴代の賞状に、新たな優勝の賞状を、そして新たな剣道部の歴史を、我々の手で加えること

OB会の活動

ながら合宿中止となつてしまいました。今年度、剣道部OB会の事務局が変わり、中曽根事務局長から、小池事務局長がバトンタッチしました。中曽根事務局長の代には、剣道部創立五十周年記念式典を挙行し、記念文集を発刊しました。小池事務局長を始めとする新事務局には、今後宜しくお願致します。

卓球部



宝田 理

我々卓球部は、毎週月曜日から土曜日まで活動を行っています。今まで卓球部は、総体で結果を残せずに他の部活に迷惑をかけていたのですが、今年度の総体では、県7位という8年ぶりのベスト8入りを果たすことができました。

しかし、定期戦のライバルである前橋高校は県2位という結果をのこし、個人戦でも多くの選手が勝ち残っているという状況です。この中で今年度の定期戦では、昨年度よりも善戦をしたと部員一同で考えています。そのためにも、練習時間を以前よりも延ばし、一人一人が目的意識を持つことが必要です。先輩方の築いてきた伝統を維持し、さらに発展させるためにも、ベスト8を維持していきたいと思っております。

水泳部



福田 裕紀

今年の水泳部は2年生を中心に、関東高校選手選と高校総体に備えて日々練習に励んでいます。そして今年度は顧問の先生も変わつたため、気持ちを入れ替えてお互いに協力し合つてきました。昨年の関東大会では、個人でインターハイ出場を果たすことができました。だから今年にはそれに加え、リレーでのインターハイ出場を目指したいと思っております。そして8月に行われる高校総体では、昨年の学校対抗での5位以上の成績を残したいと思っております。昨年より強い自分を作るには、昨年以上の努力が必要だと思っております。だから部員全員が自覚を持ち、練習に取り組めるようにしていきたいです。そして短い夏のシーズンを有効に活用して、個々に目標が達成できるように頑張りたいです。

バレーボール部



柴山 俊広

我々バレーボール部は、この1、2年で部員も多くなり、非常に活気のある練習を重ねています。ここ最近の大会では準決勝の壁をどうしても越えることができません。ベスト4という結果に満足する部員はいないだろうし、全員がまだいける、もっとうまくなれる」と思っているはず。他の強豪

高崎高校

陸上部OB会

会長 後藤 次一 (68期)

校から比べ、中学時代に実績を残した選手も少なく、高校からバレーを始める者も多い部です。しかし一人一人が努力し、工夫して飛躍的に伸びるのがうちの良さであると思います。3年生にとつて最後の大会となるインターハイ。力を出しければ、絶対に可能性はあると思います。試合に出られる者、出られない者全員が一つになって勝ちにいけます。御支援、御声援よろしくお願ひします。

弓道部

大塚 崇弘



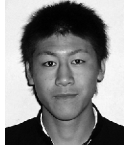
我々弓道部は、2年生12名、1年生15名の計27名で活動しています。県内の弓道部の中では部員数が比較的多いほうです。昨年は、先輩方がインターハイ出場という輝かしい成績を残してくれました。我々としても先輩方と同じ舞台に立ちたいと思い、日々練習に励んでいます。

また1年生の上達は2年生の指導次第でありますので、常に早め早めに進めるよう心掛け、1、2年とも公式戦には最高の状態で臨めるようにしていきたいと思ひます。

弓道は、体力や筋力も大事ですが、それにも増して精神力や集中力が要求されます。そのため、練習のときでも常に緊張感を持ち、一射一射を大切にしていきたいと思ひます。さらに弓道を通じて、自らの人間的向上をはかっていきたいと思ひます。

ラグビー部

近藤 学



我々ラグビー部は櫻井先生をはじめとする諸先生方のご指導のもと、花園出場へ向け日々練習に励んでいます。

春の総体では優勝を目指していたのにベスト8に終わってしまい、本当に悔しい思いをしました。なぜ、負けたのか。どこが問題であったのか。そ

んなことを考え、反省を繰り返しました。しかし、後ろばかり向いていても進歩がない。とにかく皆の信頼に基づき、前を見るしか他にないと思ひます。

近年部員が非常に増え、充実した練習ができています。その期待も大きくなっていると思ひます。その期待に応えるためには、僕たち自身が積極的に思考し実践していかなければなりません。僕たちはまだ発展途上で、理想のラグビーにはまだ到達していません。理想のラグビーを追求し、花園行くために全力で努力していきます。

サッカー部

中町 公祐

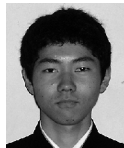


現在サッカー部は3年生23名、2年生22名、1年生23名の計68名で構成され、坂田先生の指導、丸山先生、塩原先生、保護者会やOB会などの下、様々な人々に支えられて日々練習に励んでいます。ここ3年県ベスト8の壁を惜しくも破れぬ状態が続いています。今年は何年になく大所帯で、全員が満足にボールに触れない状況となっておりますが、チーム内でもお互いに競い合い、自らの向上をはかっています。

常に一つの目標として群馬県制覇が掲げられており、決して手の届かない距離にあるわけではありません。各高校の実力が均衡している今、今年こそ高々サッカー部で群馬県制覇を成し遂げたいと思ひます。

山岳部

日部 貴博



数年間の低迷から活気を取り戻した高々山岳部の勢いは止まることを知りません。

高知国体入賞、関東大会出場、新人大会入賞など、過去に類を見ない昨年度の成績の勢いは今年になっても続いています。まずはじめに新入生への熱心な勧誘により5人の元気が新入生が入部しました。そして国体県予選で

は上位入賞を果たし、総体では8位となり関東大会出場権を手に入れました。

現在は、部員一同毎日楽しく練習に励んでいます。最近では練習の中にフリークライミングを取り入れ、2人が国体強化選手に選ばれたほどクライミング技術を向上させています。これからも毎日体力面や知識面のトレーニングを積み、楽しく安全な登山を行っていききたいと思ひます。

柔道部

今井 岳大

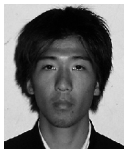


私達柔道部は3年1人、2年5人、1年2人の計8人で日々練習に励んでいます。

私達が常に心掛けていることは、何事も工夫すること。一歩前へ踏み出すことです。私達の練習時間は限られていますが、その中で最善の結果を出すため常に工夫しています。そして、苦しい時や辛い時は前へ踏み出ることです。後戻りしては自分にも相手にも勝つことができません。これからは関東大会、インターハイ県予選という大きな大会が続きます。自分達のすべき事を見失わずに、試合までの残された時間の中で「主」と「前」に出る気持ちに心を掛け、高崎高校の名をとどろかせ、インターハイの出場を目指します。これからも応援よろしくお願ひします。

陸上競技部

関 敏則



陸上部の目標の中に全国制覇という目標があります。

そして、僕達は全国を目指し、厳しい冬季練習に取り組んできました。

5月、全国への第一関門である県総体を4人が突破しました。この4人は全国への第一関門である北関東大会で、それぞれの目指すものに向けて勝負するため調子を上げつつあります。4人と3年生ということで、高校生活最後の

高崎高校

ソフトテニス部OB会

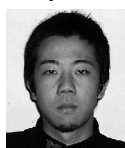
会長 下山 万吉雄 (63期)

年を悔いの残らないようにすべく、日々の練習にも熱が入っています。

しかし、忘れてはならないことは顧問の先生方、OBの方々、そして仲間達などの支えによって競技を続けることができたことであると思ひます。(伝統を受け継ぎ、さらに発展させるよう精一杯頑張っていきたいと思ひます。)

応援部

永田 和也

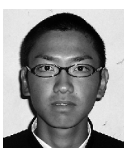


我々応援団は今年で第52代を数え、高々の伝統を長きに渡って受け継いできました。

我々応援団の活動は、集会の際に校歌、応援歌のリーダーをとるなど形式化したものが多くあります。しかし我々はこの形式化したものの中に、いかに魂を込めるかを考え、やってみりました。延いては国際化が進むこの時代において、日本独特の「応援団」という一つの伝統を継承しつつ、時代に適応するよう発展させ、この高々の将来のために尽力していく次第であります。伝統よ更に承えあれ 押忍

ソフトテニス部

丸岡 哲也

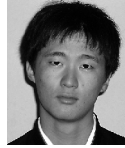


我々ソフトテニス部はインターハイに団体で出場し、全国で勝つという目標の下、日々練習に励んでいます。先日行われた大会で、ペアが全国大会出場を決めてい

て、総体では個人戦ベスト4に3つという成績を残しながら、団体戦4位というとても不甲斐無い成績でした。「インターハイ予選ではこんな思いはしたくない」とみんなの気持ちは一いつになつていきます。この代になつての大会はすべて農二が優勝しています。そろそろ高々が勝たねは県の皆様が飽きているのではないかと感じます。強い気持ちを持って全力でがむしゃらに勝ちにいくと思えます。まずは関東大会、そこからインターハイへと。皆様の御支援、御声援よろしくお願いたします。

スキー部

こんにちは、スキー部です。



橋爪 真太郎

現在4人という少ない人数ながら、それぞれの目標に向かって努力しています。スキーはシーズンスポーツであるため冬の間しか活動してないのではないかと思われがちです。しかしそれは大きな間違いで、夏期のトレーニングやシーズン中の練習をよりよいものにするために重要です。スキー場から遠く離れている上に、十分な練習時間を確保できない高々生にとって練習の質を上げることはとても重要ですね。

練習環境は決して満足いくものではありません。しかし、どこにもならないことをとやかく言っても仕方ありません。今できることを一杯して、自分達の目標達成を目指し日々精進していきたいと思えます。

空手道部

我々空手道部は、3年生3名、2年生1名、1年生7名という少ない人数で普段活動しています。活動時間は、平日



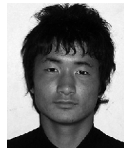
土屋 和彦

の放課後4時から6時までの2時間で、その後各自自主練習をしています。試合が近づくと週6日制で励んでおります。我々の目標は団体組

手形ともに関東大会に出場することです。そのために基礎体力作りを中心とした練習をしています。引退した先輩方にも時々練習を見てもらい、指導してもらっています。1、2年生は、インターハイで引退される先輩方にたくさんのごとを学んで、早く追いつけるようになってほしいと思います。我々の部活はコーチがいらないので、自らに厳しくし、お互いに切磋琢磨して、空手部全体で一丸となって取り組もうと思えます。

テニス部

テニス部は現在、約百人という超多数の部員で活動しています。そんなわけで必然的に一人当たりの練習量が



矢川 雄太

他校より少なくなりますが、そこはさすが高々生です。早朝や昼休み等の合間を見つけて少しでも多く練習しようとする人や、部活が休みでも自主練習に来る人がたくさんいます。その甲斐あってか、高々生大会があと数日に賞状を持って帰ります。しかしながら、あと一歩というところでインターハイを逃してしまいました。これからの我々の目標はその状況をいかに打破するかということにあります。そして、その目標を通して頑張りこく中で互いに切磋琢磨し、文武両道を達成することや、互いを思いやる気持ちを養うことができたらいと思えます。

軟式野球部

我々軟式野球部は、現在2年生16名、1年生21名、計37名により日々練習に励んでいます。練習は週3日、河川



阿久沢 晃宏

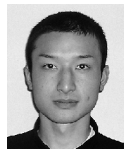
敷のグラウンドで行っています。練習日数、場所は限られているのですが、部員一人一人が数少ない練習を充実したものにするため、真剣に取り組んでいます。軟式野球部ならではの楽しさや明るさも、一人一人が笑顔で元気に野球を

しています。今年度の県総体では先輩達が準優勝という結果を手に入れました。僕たちもそれに負けない成績を残したいと思えます。

そしてこれからは今までに培った技術、これからの練習で身につける予定の知力で、高々旋風を巻き起こしたいです。応援よろしくお願いたします。

バスケットボール部

我々バスケットボール部は、顧問の長竹先生、副顧問の篠原先生、渋谷先生の指導の下、みんなが切磋琢磨し、日々練習に励んでいます。県新人大会では準優勝して

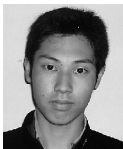


金井 隆太郎

関東大会に出場し、すばらしい経験を積みました。しかし、県総体では3位と不本意な結果で、負けたことにより、自分達の今まで気づかなかったことに気づき、部員もさらにH予選に向けて一致団結することができました。H予選までの限りある時間を一秒も無駄にしないで、自分達のバスケットボールに対する気持ちのすべてをぶつけたと思います。自分達のためにまた応援してくださる方々の期待に応えるためにも、必ずHに出場します。そして、自分達が追い求めるものが間違っていないかと思えるように精進します。

バドミントン部

今年のバドミントン部は少ないコート数の中、3年中心に精力に活動しています。今年は今入部員も多く、皆熱心に練習をしています。去年先輩達が出したインターハイ予選ベスト8という記録以上の記録を残すために、技術の向上に励んでいる毎日です。私達がいる地域では、中学にバドミントン部がある所が少ないので、未経験者が多いです。や

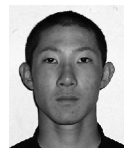


永井 伸也

はり高校総体などでは、経験者が多い地域が上位になり、悔しい思いをしています。その経験の差を埋めることはとても難しいですが、部員全員がバドミントンに対する熱意があるので、努力はかならず実る日か来ると思っています。これからも、向上心を失わずに、よい結果をより多く残せるよう、ますます精進していこうと思えます。

硬式野球部

我々硬式野球部は、3年生13名、2年生15名、1年生15名の計43名で毎日の練習に励んでいます。「基本に忠実に」、



糸井 孝典

「いつでも謙虚に」、「向上心を持って」などといった姿勢で活動しています。新チーム発足以来の成績は、残念ながら秋の段階では、いい結果には結びつきませんでした。しかし冬のとても厳しい練習を乗り越えて、春になってみたら粘り強い試合運びができるようになっていました。

3年生にとってはこのチームでの活動も残り2ヶ月になりました。各学年の横のつながりを強めることも、学年という壁を越えた縦のつながりを大事にして、チームの結束を固めたいと思います。そして甲子園出場という大きな目標に向かって、日々の練習に取り組みでいきたいと思えます。ご声援よろしくお願いたします。

高崎高校

ラグビー部OB会

会長 関根 正志(70期)

平成14年度 運動部活動状況

陸上競技部

関東大会 八百m 4位(中山) 百十m 8位(樋口)

千五百m 5位(中山) 8位(関)

インターハイ 八百m 6位(中山) 千五百m 5位(中山)

新人大会 八百m 7位(小杉) 三千m SCC 1位(飯塚)

千五百m 1位(関) 8位(小杉)

五千m 1位(関) 5位(飯塚)

五千m W 1位(長幡) 2位(山口)

棒高跳 5位(高田) 走幅跳 2位(谷岡)

三段跳 7位(福田) 円盤投 1位(片山)

やり投 2位(片山) 6位(高田)

関東選手権 八百m 5位(中山) 千五百m 5位(中山)

五千m 7位(関) 百十m 5位(樋口)

学校対抗 八百m 1位(中山) 7位(瀧川)

千五百m 1位(中山) 4位(関)

五千m 2位(関) 6位(高橋)

百十m 2位(樋口)

四百m H 7位(宮近) 8位(神戸)

三千m SCC 5位(飯塚) 6位(新井)

五千m W 3位(山口) 5位(長幡)

棒高跳 8位(高田) 走幅跳 1位(谷岡)

三段跳 7位(福田) 砲丸投 5位(片山)

円盤投 4位(片山) ハンマー投 5位(千頭和)

やり投 1位(片山) 3位(高田)

四×四百m R 7位(住谷・宮近・神戸・中山)

五千m 2位(関) 4位(飯塚) 五千m W 2位(長幡) 三段跳 7位(福田) やり投 2位(高田) 4位(片山) 円盤投 2位(片山) 5位(高田) 西部地区大会 総合2位

バスケットボール部

関東大会 1回戦 82-54桐光学園(神奈川)

準々決 62-92京北(東京) 5位

インターハイ県予選 決勝戦 71-75高商 2位

国体 西村牛込・鈴木櫻井・群馬県少年男子

選抜チームとして出場

新人大会 決勝リーグ 2回戦 群馬68-99沖縄

92-68前商 83-58沼田

96-101高商 77-109高商 2位

西毛地区大会 決勝戦

バレーボール部 1回戦 2-0日野台(東京)

2回戦 0-2東海大浦安 (千葉)

インターハイ県予選 4回戦 2-0館林

準々決 0-2高工

準決勝 1-2桐商 3位

新人大会 3回戦 2-0農二

準決勝 2-0豊田 2-0桐商

0-2桐商 2-0富美

2-0中央 優勝

秋季大会 決勝戦 2-0樹徳

3回戦 2-0高北 準々決 2-0前商

準決勝 1-2伊東 3位

佐藤次郎杯 個人 斉藤・土岐組 2位

近県選抜大会 個人 徳安・丸岡組ベスト8

徳安・丸岡組ベスト8 徳安・丸岡組ベスト8

徳安・丸岡組ベスト8 徳安・丸岡組ベスト8

徳安・丸岡組ベスト8 徳安・丸岡組ベスト8

徳安・丸岡組ベスト8 徳安・丸岡組ベスト8

徳安・丸岡組ベスト8 徳安・丸岡組ベスト8

徳安・丸岡組ベスト8 徳安・丸岡組ベスト8

徳安・丸岡組ベスト8 徳安・丸岡組ベスト8

徳安・丸岡組ベスト8 徳安・丸岡組ベスト8

徳安・丸岡組ベスト8 徳安・丸岡組ベスト8

徳安・丸岡組ベスト8 徳安・丸岡組ベスト8

徳安・丸岡組ベスト8 徳安・丸岡組ベスト8

徳安・丸岡組ベスト8 徳安・丸岡組ベスト8

徳安・丸岡組ベスト8 徳安・丸岡組ベスト8

徳安・丸岡組ベスト8 徳安・丸岡組ベスト8

徳安・丸岡組ベスト8 徳安・丸岡組ベスト8

徳安・丸岡組ベスト8 徳安・丸岡組ベスト8

徳安・丸岡組ベスト8 徳安・丸岡組ベスト8

徳安・丸岡組ベスト8 徳安・丸岡組ベスト8

徳安・丸岡組ベスト8 徳安・丸岡組ベスト8

徳安・丸岡組ベスト8 徳安・丸岡組ベスト8

徳安・丸岡組ベスト8 徳安・丸岡組ベスト8

卓球部 インターハイ県予選 1回戦 3-0中央

2回戦 3-0高経附

3回戦 2-3前橋

個人ダブルス 築瀬・栗田組 ベスト8

新人大会 団体 1回戦 1-3伊市高

2回戦 3-13渋川

県強化大会 シングルス 栗田 ベスト64

栗田 ベスト64

弓道部 インターハイ県予選団体戦

個人戦 優勝(1日出場)

団体戦 小林 2位(1日出場)

決勝トーナメント1回戦

個人戦 小林 準決勝敗退

堀内 6位 関東大会出場

堀内 5位

西毛地区大会 団体戦

ラグビー部 インターハイ県予選

準々決 16-22樹徳

1回戦 85-10合同

準々決 6-20農二

2回戦 17-19泉央

準々決 19-29農二

5位

サッカー部 インターハイ県予選

4回戦 3-0太田

準々決 0-2高経附

3回戦 3-1伊工

2回戦 3-0太田

準々決 0-1高経附

1回戦 0-1高経附

3回戦 3-0太田

準々決 0-1高経附

1回戦 0-1高経附

3回戦 3-0太田

準々決 0-1高経附

1回戦 0-1高経附

3回戦 3-0太田

準々決 0-1高経附

1回戦 0-1高経附

3回戦 3-0太田

準々決 0-1高経附

1回戦 0-1高経附

3回戦 3-0太田

準々決 0-1高経附

1回戦 0-1高経附

3回戦 3-0太田

水泳部 県総体

二百個メ 2位(賢田) 7位(福田)

四百個メ 1位(賢田) 7位(福田)

百背 4位(松井) 二百背 4位(松井)

二百バタ 6位(中島) 8位(飯野)

千五百自 6位(中島) 7位(大島)

四百R 5位(賢田) 中間松倉・中島

八百R 6位(賢田) 福田・松井・中間

四百メ R 5位(松井) 飯野・賢田・松倉

八百R 5位(松井) 飯野・賢田・松倉

四百メ R 5位(松井) 飯野・賢田・松倉

八百R 5位(松井) 飯野・賢田・松倉

四百メ R 5位(松井) 飯野・賢田・松倉

八百R 5位(松井) 飯野・賢田・松倉

四百メ R 5位(松井) 飯野・賢田・松倉

八百R 5位(松井) 飯野・賢田・松倉

四百メ R 5位(松井) 飯野・賢田・松倉

八百R 5位(松井) 飯野・賢田・松倉

四百メ R 5位(松井) 飯野・賢田・松倉

八百R 5位(松井) 飯野・賢田・松倉

四百メ R 5位(松井) 飯野・賢田・松倉

八百R 5位(松井) 飯野・賢田・松倉

四百メ R 5位(松井) 飯野・賢田・松倉

柔道部 関東大会

団体 ベスト16位

インターハイ県予選

団体 3位

個人 73 kg級 青木 3位
81 kg級 樫澤 優勝
個人 81 kg級 樫澤 ベスト 16位

新人大会 団体 3位
全国高校選手権県予選 個人 樫澤 優勝
3位

学年別大会 三年の部 個人 今井 2位

剣道部

インターハイ県予選

2回戦 4-1 健大高崎
3回戦 3-2 伊東
4回戦 2-2 前商(本数負)
新人大会 2回戦 5-0 前南
3回戦 4-1 桐生
4回戦 0-3 前西
県選手権大会 2回戦 4-1 太田
3回戦 3-2 伊東
4回戦 1-3 高工

硬式テニス部

関東大会 個人 シングルス 都筑 1回戦
個人 ダブルス 都筑・板橋組 1回戦
インターハイ県予選 団体 板橋 2位
個人 シングルス 都筑 3位

インターハイ 個人 シングルス 都筑 ベスト 64
団体 個人 シングルス 都筑 1回戦
新人大会 団体 個人 シングルス 矢川 ベスト 8
個人 ダブルス 矢川・橘組 ベスト 8

空手道部

インターハイ県予選 個人形 木暮 決勝進出
新人大会 個人形 木暮 決勝進出
個人組手 木暮 ベスト 16
新人大会 空手道連盟主催 個人形 木暮 決勝進出
県一、二年生大会 個人形 木暮 決勝進出

硬式野球部

全国高校野球選手権大会県予選

2回戦 7-0 中之条
3回戦 1-2 前橋

秋季関東大会県予選 1-8 前橋
春季関東大会県予選 2回戦 3-1 太東
3回戦 3-5 桐生

若駒杯(一年生強化試合)
決勝トナメント 1回戦 4-0 市伊勢崎
準決勝 1-3 太商
3位決 15-1 高工 3位

スキー・スケート部

県総体 園田 回転 20位・大回転 19位
関東大会 園田 回転 17位・大回転 18位
インターハイ県予選 園田 回転 11位・大回転 13位
園田 12位
園田 12位
春季選手権大会 園田 回転 6位・大回転 15位

バドミントン部

インターハイ県予選 団体 1回戦 3-0 富実
2回戦 3-0 太工
3回戦 0-3 太商

新人大会 団体 2回戦 3-2 伊商
3回戦 0-3 太田
ダブルス 狩野・清水 永井・山口 4回戦
シングルス 狩野 高橋 3回戦
1年 シングルス 落合・三世川 4回戦
3回戦

軟式野球部

インターハイ県予選 2回戦 13-3 前南(5回コールド)
準々決 0-7 前商(7回コールド)

新人大会 2回戦 7-0 桐一(7回コールド)
準々決 2-8 前商

山岳部

関東大会(順位なし) 団体 日部 群馬県チームとして出場
総合 7位(クライミング 8位・縦走 6位)
山田昇杯 日部 4位
県民体育大会 日部 4位
日部(総合 3位) 柴山(総合 4位)

第38回高校総体成績一覽(15年度)

総合順位 第2位

1位育英(106) 2位高崎(93) 3位前商(83)
4位前高(80) 5位農(65)

バスケットボール部

2回戦 78-24 渋川
3回戦 87-43 太東
4回戦 133-58 桐工
準々決 105-69 太工
準決勝 72-85 樹徳 3位

卓球部

1回戦 3-0 西邑
2回戦 3-2 市伊
3回戦 3-1 太田
準々決 0-3 樹徳 5位

バレーボール部

4回戦 2-0 樹徳
準々決 2-1 太東
準決勝 0-2 伊東 3位(関東大会)

ラグビー部

1回戦 79-7 桐一
2回戦 41-7 興陽
準々決 0-67 樹徳 5位

サッカー部

4回戦 3-1 桐南
準々決 0-3 育英 5位

ソフトテニス部

2回戦 3-0 中央
3回戦 2-0 高経
準々決 2-1 利商
決勝リーグ 1-2 高北・0-3 農二前商

個人 2位(徳安・相沢) 3位(小林・丸岡) 4位
3位(斉藤・土岐) 9位(根岸・野尻)
(個人 4組 関東大会)

バドミントン部

2回戦 1-2 農二
個人 シングルス 4回戦(高橋)
個人 シングルス(高橋・落合・三世川・田嶋・清水)
個人 ダブルス 4回戦(遠藤・田嶋)
3回戦(狩野・清水・大山・高橋)

柔道部

2回戦 3-2 興陽
3回戦 2-2 利商(内容勝)
準々決 2-3 富岡
5位決 2-2 青翠(内容勝) 9位(関東大会)
個人 今井 3位

剣道部

2回戦 5-0 県央
3回戦 4-1 育英
準々決 0-4 前橋 5位

山岳部

8位(関東大会)

軟式野球部

2回戦 3-1 高商
準々決 9-3 農二
準決勝 5-0 桐生
決勝 2-9 前商 2位

硬式テニス部

2回戦 3-0 館商
3回戦 2-0 前商
準々決 2-0 新島
決勝リーグ全て 1-2 太田前西・高工 4位
シングルス 矢川 3位(関東大会)
ダブルス 井上・佐々木 5位

空手道部

1回戦 3-2 健高
2回戦 1-4 沼田 2回戦

弓道部

予選

陸上競技部

千五百m 3位(飯塚) 4位(関)
砲丸投 6位(片山) 5-7投 4位(高田)
五千m 2位(関) 三千障害 2位(飯塚)
やり投 3位(片山) 6位(高田)
円盤投 2位(片山) (ここまで北関東大会)
四百m 7位(藤井) 走幅跳 8位(福田)
棒高跳 8位(高田) 八種 6位(福田)
八百m 7位(藤井) 5位

翠 巒 体 育 会 役 員 名 簿

(平成 15. 6. 27)

	氏 名	回	学 校 側 顧 問
会 長 (卓 球)	山 口 正 敏	58	学 校 長 ・ 小 林 克 茂 教 頭 ・ 富 所 三 郎 運 動 部 長 ・ 坂 田 和 文
副 会 長 (水 泳)	山 口 宗 一	65	
〃 (野 球)	川 手 義 昭	62	
〃 (剣 道)	◎ 横 田 茂 章	55	
〃 (ソ フ ト テ ニ ス)	塚 越 章 司	58	
〃 (ラ グ ビ ー)	木 村 洋	59	
〃 (バ ス ケ ッ ト)	◎ 林 進 一	72	
〃 (柔 道)	庭 田 登 志 男	68	
〃 (サ ッ カ ー)	佐 藤 義 夫	58	
〃 (バ レ ー)	高 橋 浩 生	78	
会 計 監 査 (応 援)	丸 山 功 一	60	
〃 (陸 上)	廣 田 誠 四 郎	64	
顧 問 (サ ッ カ ー)	国 峯 善 次 郎	50	
〃 (バ ス ケ ッ ト)	岩 田 武 雄	53	
〃	清 水 貞 保	30	
理 事			
陸 上	◎ 後 藤 次 一	68	高 橋 賢 作 ・ 茂 原 賢 三 ・ 田 中 雅 徳 内 田 均 ・ 濱 野 雅 樹 井 坂 奨 ・ 浦 野 克 彦 ・ 柴 崎 浩 明 長 竹 潤 ・ 篠 原 浩 一 ・ 澁 谷 正 章 塚 本 泰 弘 ・ 茂 木 豊 ・ 宮 川 淳 吾 櫻 井 清 ・ 大 野 俊 彦 ・ 西 澤 南 ・ 中 野 憲 一 坂 田 和 文 ・ 塩 原 秋 雄 ・ 丸 山 直 樹 橋 本 晃 一 ・ 諏 訪 賢 一 鳥 居 吉 二 ・ 木 村 高 己 戸 塚 泰 聖 ・ 萩 原 弘 和 大 須 賀 誠 一 ・ 毒 島 健 一 ・ 川 崎 洋 一 濱 野 雅 樹 植 原 政 明 ・ 川 崎 洋 一 塚 越 究 ・ 松 本 正 志 ・ 中 村 健 一 森 泉 孝 行 ・ 齊 藤 敬 一 ・ 小 林 政 幸 ・ 丸 山 直 樹 小 林 政 幸 ・ 猿 谷 亮 司 天 野 正 明 ・ 丸 橋 覚 工 藤 正 宏 ・ 関 口 博 士 関 根 正 弘 ・ 関 口 理 三 浦 昭 久 ・ 宮 崎 秀 明
卓 球	◎ 深 沢 博 昭	68	
ソ フ ト テ ニ ス	◎ 下 山 万 吉	63	
バ ス ケ ッ ト	丸 山 良 一	75	
バ レ ー	◎ 藤 原 弘 之	81	
ラ グ ビ ー	◎ 関 根 正 志	70	
サ ッ カ ー	◎ 阿 久 沢 正 弘	69	
水 泳	◎ 赤 羽 英 光	73	
柔 道	◎ 新 谷 哲 泰	54	
剣 道	◎ 小 木 勝 弘	56	
野 球	◎ 尾 口 俊 茂	70	
応 援	◎ 東 瀨 朝 保	69	
硬 式 テ ニ ス	◎ 藤 木 正 行	83	
山 岳 ス キ ー ・ ス ケ ー ト	◎ 飯 野 一 政	74	
弓 道	◎ 小 池 潤 一	77	
空 手	◎ 小 水 清 正	75	
軟 式 野 球	◎ 永 井 功 均	77	
パ ド ミ ン ト	◎ 堀 口 清 治	65	
編 集 部	藤 井 正 弘	81	
事 務 局 長	鳥 居 吉 二	73	
野 球	◎ 飯 島 勇	57	
バ レ ー	◎ 菊 地 俊 二	52	

◎ は 各 部 O B 会 長。

◎ ◎ 編 集 後 記 ◎ ◎

私もこの『翠巒体育』の編集に携わるようになって、早いものでもう5、6年が過ぎたでしょうか。今では春の訪れの頃には、そろそろ編集会議が始まるのかなと思うようになりました。一昨年第1号からこの『翠巒体育』を見る機会がありました。第1号は75期の人達が高々の3年生の年でした。それ以来ずっと高々運動部の歴史を伝え続けてきているのです。私は庭球(テニス)部の出身ですが、今ではその庭球部もソフトテニス部と名称が変わりました。先日、現役選手が頑張っているという話を耳にしました。わがOB会も現役に負けずに活発に活動したいと思っており、若手のOBにもより多くの参加をと考えています。

そんな折、今年行われた県議会議員の選挙で高々運動部出身の若手議員が誕生しました。前回の岩井均氏(81期野球部)に続き、橋爪洋介氏(85期卓球部・伊藤祐司氏(75期水泳部)です。若手のこれからの活躍に期待します。(山崎・)

翠巒体育 第二二号
平成十五年六月二十七日発行
翠巒体育会事務局
〒三七〇〇八六一
高崎市八千代町二四十一
群馬県立高崎高等学校内
☎〇二七(三三)四〇〇七四
制作・発送 (株)スパン